

研究内容の説明文

献血者説明用課題名※ (括弧内は申請課題名)	CD36 遺伝子変異と抗体産生との関連性に関する研究 (CD36 遺伝子非コード領域における変異解析法の検討および抗 Nak ^a 産生との関連調査)
研究期間 (西暦)	2018 年 4 月～2019 年 3 月
研究機関名	関東甲信越ブロック血液センター 検査部 検査三課
研究責任者職氏名	血液製剤技術専門員 安藤萌

※理解しやすく、平易な文言を使用した課題名

研究の説明

1 研究の目的・意義・予測される研究の成果等

CD36 は脂肪細胞や血小板、単球など様々な細胞の表面に存在する抗原ですが、まれに CD36 をもたない人がいます。輸血や妊娠により CD36 を欠損する人の体内に CD36 が入ると、免疫細胞によって異物とみなされ、CD36 に対する抗体が作られることがあります。この抗体は抗 Nak^a とよばれ、輸血医療において呼吸障害を引き起こしたり血小板の輸血効果を著しく低下させたりするなどの副作用に関与することがわかっています。

CD36 欠損の要因として、CD36 遺伝子上に様々な変異が見つかっています。本研究は、CD36 を欠損する人のもつ遺伝子変異を調べ、それらの変異と抗体産生のリスクとの関連性を明らかにすることを目的とします。抗 Nak^a が血液製剤中に存在すると重篤な輸血副作用を引き起こす危険性が高い一方で、抗体検出率は極めて低いため、的確な対応がとりにくいという現状があります。CD36 欠損の実態と抗体産生の関連性が明らかになれば、明確な対応基準の設定とその必要性の判断材料の一つになると思われます。

2 使用する献血血液等の種類・情報の項目

献血血液の種類：①献血の流れの中で採血された血液の検査残余、または②輸血副作用に関与した血液製剤から抽出された DNA

献血血液の情報：②に関連する副作用情報として、献血者の性別、輸血副作用の履歴、副作用関連検査の結果

3 献血血液等を使用する共同研究機関及びその研究責任者氏名

共同研究機関はありません。

4 研究方法《献血血液等の具体的な使用目的・使用方法含む》

献血血液等のヒト遺伝子解析：行いません。 行います。

《研究方法》

本研究では、献血時に採血された血液の検査残余、および輸血副作用に関与した血液製剤から抽出された DNA を用いて、CD36 遺伝子の塩基配列を決定します。抗体保有者と非保有者の配列を比較し、抗体産生に関連する変異を推定します。CD36 遺伝子以外は解析対象としません。CD36 遺伝子配列から特定の疾患の診断がつくことはありません。

5 献血血液等の使用への同意の撤回について

試料①については「献血の同意説明書」にて、血液の研究利用に了承を得られた方に限り研究対象としています。試料②は「献血の同意説明書」の運用開始前に採取された

ため、本研究で使用される個人情報に関して、その該当者は差止めや開示等を請求することができます。

6 上記5を受け付ける方法

下記「本研究に関する問い合わせ先」にご連絡ください。

本研究に関する問い合わせ先

所属	関東甲信越ブロック血液センター 検査部 検査三課
担当者	安藤萌
電話	03-5534-7577
Mail	m-ando@ktns.bbc.jrc.or.jp